**授業づくり研修講座　実践レポート**

座間市立相模が丘小学校　　山田　憲吾

第六学年

**実践ポイント（工夫）**

文章の構成に着目して、読み手に伝わりやすい文章を書く力を育てる。

**実践内容（成果）**

研修を受けて、「書く」力を養うために、文章の構成、表現力が特に必要だと感じ、そこを伸ばすためにいくつかの取り組みを行った。その取り組みについては、以下の通りである。

1. **ウェビングの活用**

書く題材をまず整理するためにウェビングで表現させた。どの部分が一番伝えたいのか考え、書く順番を整理してから文章を書くようにした。こちらも子どもの思考の過程がわかりやすく、指導の方もしやすかった。また、ウェビングが進まない児童については、友達とウェビングマップを見せ合い、アイディアをもらいながら自分の考えを膨らませていった。そのことが書く抵抗力を少なくし、スムーズに文章を書くことにつながったと考えられる。

1. **書いて読み直し、考え直して、また書いてみる。**

まず、自分で文章を書くようにさせた。その書き終わった文章を自分で読み返し、また、友達にも読んでもらい、お互いにアドバイスをし合うことで、どの並びだと相手に最も伝わりやすいか、ということを考えさせた。最初は時系列になっていた文章も自分の伝えたい主張が先に来て、その後に理由が来る文章に変わっていった。書いて文章の流れがわかることで、友達との交流もしやすく、より伝わりやすい文章を考えることにつながっていった。

1. **話し合いなどの意見交流**

『よさを伝える広告』という単元で、身近な物の広告を書いた。その中で、「ほしい」と思わせるキャッチコピーを考えさせた。実際に短い言葉をいくつか考え、友達に伝え合い、考えさせた。その中である児童が「商品名を入れずに伝わる言葉がいいよ。」「短く、最後は言い切りの形にするとインパクトがある。」などの意見を言い合っていた。また、レイアウトも色の使い方や文字の配置、絵についても友達と意見交流することでいろんな視点を持った広告を仕上げることができた。

**振り返り（反省）**

　研修で得た知識を授業の中で取り組むことで子どもたちの「伝えたい」という気持ちが強くなっていった。また、相手とのアドバイスの中で、相手に思ったより伝わっていないことなど違った視点を持つことができた。しかし、まだまだ文章を書く個人差が大きく、また語彙力が乏しい児童もいる。そのような児童でも文章の構成や表現に着目した授業をこれからも模索したい。